

～24号-2015年1月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター

訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

[E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp](mailto:tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp) (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

■トカネット・今月の無料個別相談日のお知らせ (前日までの予約制) 2名様

◆1月17日(土)13時～

◆1月27日(火)13時～

(☆上記以外の日にちを希望されます場合は、予約制、通常ご相談料金3000円です。)

新年明けましておめでとうございます。

毎年、元旦になると「今年こそは…！」と誰しも思うものですが、皆様の今年こそは…、何でしょうか？ 今年こそは実現できるといいですね。

そのためには、～したい、～なりたい、ことに繋がることをほんの少しでも行動してみることだと思います。なんでも行動するには勇気がいります。でもやっぱり、何かを変えるには行動しかありません。

私たちは、「それぞれの社会参加」を目標に活動をしているNPOです。事務所ではひきこもりから出てきた人たちが事務作業をしています。パソコン作業と書類作業があります。時々新しい人が勇気を出して事務所に来ますが、最初はほとんど話せません。作業もなかなか慣れなくて時間もかかります、もちろんミスも多いと思います。それが、一年たったら仕事のスピードが随分速くなっています、仕事での連携もとれて、それなりに慣れた人の中では雑談もできるようになっています。

人とつながる事、そしてその中でできる事が増えていく事…、これが人の自信に繋がっていきます。やはり最初の一步の勇気です。

去年は、メンタルフレンドの訪問サポートで他人と繋がった方たちが結構おられました。最初は親御様の所に訪問して、少しずつ子供と一緒に会えた方もおられました。どんな形でも、たとえ数分でも会えれば少しずつ確実に変わっていています。

どうやって他者につなげていくか、最初の一步を一緒に考えていくために、『訪問サポートを考えてみる親会』を～社会参加に必要な物とはなんだろう？～今からどうやって身につけていったらいいのだろう？など個々に添って考えていく場にしていきます。ぜひ、ご参加をお勧めいたします。一緒に考えていきましょう！

今年は、親御様たちがまず一步何かを始める年になればと思っております。

愛情の表現ができなければ信頼の表現を

松田 武己

先日、数人で話したのは愛情、まずは親と子の間の愛情についてです。愛情をどのように表現するのか。特に言葉による愛情表現は難敵です。女性に比べて男性はことさらそれが難しくなると思います。

昔きいた話です。ある孤児院にいる子どもがそこに働く寮母さんに「愛って何？」と聞きました。こういう質問を受けることの切なさが迫ってきます。寮母さんは静かにその子を温かく抱きしめたのです。その子からは「愛っていいね」という言葉が返ってきました。こういう動きというか反応は女性の方がはるかに自然で高度に表現しています。

親と子の間の愛というとき、私にはそれに直接的に答える思い出はありません。それでも、70年近くの短くない人生のあらゆることの中で、いちばんという場面があります。そういう場面は十代に感じるのかもしれませんが。

高校1年生か2年生の冬のことです。通学定期券はいまと違って改札口で駅員が目視で確認します。乗客が次つぎに改札を通りますから、見逃しも発生します。当時のわが家は母と弟の3人の超貧乏生活です。自分の学費や小遣いは新聞配達と週2日の家庭教師と休日のアルバイトでまかなっていました。弟と一緒に生活費も出していました。

通学定期券は節約の対象でした。期限が切れても2、3日は改札口をうまく切り抜ける算段がしょっちゅうです。しかしこのとき改札口で駅員から止められました。

駅員室に連れて行かれたときストーブがよくきいて暖かいと感じた記憶があります。小さな田舎町です。生徒がどこのだれかはすぐに知れます。家には電話はありませんでしたが、母にはすぐに連絡が行ったようです。

30分ほど夜の寒い道を歩いて帰る途中はいろんなことを考えていたはずですが。家に帰ると母は手を休めてこういいました。母も考えていたのでしょう。

「お前のことは信用している。お前は悪いことはできない。いなげなことをするな(妙なまねをするな、という方言)」。1分もない短い話でした。「わかった」と返事をしたはずですが。どんなやり取りであったかは細かくは思い出せませんが、この時の記憶はなくなりません。それ以後は定期券のごまかしはしていません。いや全てにおいてごまかしはしていないはずですが。

後になって考えると、母は小遣い銭や教材費を気にして自責を感じていたのかもしれませんが。ある教材が買えなくて補習授業を受けないことがありました(サボったというのが言い訳です)。担任の先生から聞いていたでしょう。進学クラスに紛れ込んだ貧乏生徒だったわけです。その担任は後に授業料免除の手続きをしてくれた人情家でした。母はそういうなかで私の行動を見ていたように思います。

母は私の行動を信用していました。それだけにこの事件はショックだったと思いますが、あの言葉だけがすべてでした。なぜそういう行動をしたのかは母には容易にわかることだったのです。母はその場ではすべて言葉で表現しました。

私の十代のとき父は不在です。遠くの果てに避難生活(?)をしていたのです。

さてこれを母の愛情表現と置き換えてもいいのでしょうか。私に自信はありません。私は親と子の関係において、愛情表現よりも信頼関係をより重視した言い方をしてきました。そうなったのは間違いなくこの私の体験が関係しています。それでもスキンシップや抱いてやるように勧めたことはよくあります。そうされてきた人たちの声を聞く機会が重なっていたからです。それが愛情表現になると理解してのことです。

女性に比べて男性は“不器用”です。不器用であることは愛情のあるなしとは関係のないものですが、表現しないことは愛情欠如と同じになります。しかし、“不器用”な表現であることと表現しないことは同じではありません。それでも“不器用”な表現しかできない人にとっては(男性に限りませんが)損な役回りといえるでしょう。

なぜ不器用なのか？ 養老猛司さんが三木成夫さんという解剖学の先輩を紹介して書いていることです。

「三木先生の話が心を打つには、そこに強い情動があって、それを理性がよく統制しているからであろう。お子さんのことを書いている部分でも、そんなことは一言も書いていないのに、親としての愛情が伝わってくる。思えばこういう情の持ち方は、私より年長の世代の人に多かったという気がする。誕生日のプレゼントだとか、そういう形に見えることはしないのだが、何かの折に強い愛情を感じる」。

そして「情理ともに兼ね備えることはなかなかむずかしい」として、理と情のバランスが品格を決めるもので、バランスが大事だというわけです。バランスが悪いのです。

回り道をしましたが、男性は理の方にバランスが傾き、女性は情の方にバランスが傾きがちです。男性の愛情表現はおそらく理が奇妙に混ざって表現されるのではないのでしょうか。“素直ではない”愛情表現はその結果だと思います。それが不器用と評せられることになるとしても、それでいいのです。

おりしも“不器用”な人として名をはせた高倉健さんがなくなりました。高倉健さんを見れば不器用でいいじゃないですか。不器用の反対語は器用ですが、器用な愛情表現って逆にうさんくさいですよ。

対人関係の世界では“情感こまやかに”表現するのがよさそうです。しかし、愛情表現を“情感こまやかに”表そうとしても父親にとっては高望みというものです。ならば不器用であってもいい、それなりの愛情表現をすればいいのです。

その心理的な壁が超えられそうでなければ、子どもを信頼して任せてみよう。それが私のすすめる信頼を言葉にする方法です。これは理に基づく表現、言葉によるものです。愛情かどうかの自信はないと言いましたが、できそうな気分になりませんか。

◆今後のお知らせ

(1) 「第4回・訪問サポートを考えてみる親会」

●メンタルフレンド・社会生活サポーターとかかわって、不登校やひきこもりの人たちを社会参加につなげたいと考えている親の会です。具体的にご一緒に考えていきましょう！

*テーマ：どうやって他人につなげていくか？ 何が変わるのか？

*日時：1月18日(日)、13時～15時30分。

*参加費：一人500円。*対象：10～40代不登校・ひきこもりの人の親

(2) 第28回不登校・中退者の対応「ミニセミナー&質疑応答の会」

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと・・・など専門家と一緒に考えていきます。

*日時：1月24日(土)、13時～16時。

*参加費：一人500円

*対象：10代および20代前半の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*レクチャー：

*日時：1月11日(日)、13時～15時。

*参加費：一人500円

*対象：親・体験者・学びたい人

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所：NPO 法人不登校情報センター(JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。

迎春



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokanet/